

# 第 183 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

## 議事概要

日 時：令和 4 年 10 月 27 日（木）11:30～12:00

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

### ・会議の概要

#### <報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

#### <議題事項>

- ◇ 新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応について、情報共有を行った。

## 1 参加者

玉城 知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、田代 秘書防災統括監、  
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、大城 生活企画統括監、  
系数 保健医療部長、下地 農政企画統括監、松永 商工労働部長、  
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、  
半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、  
喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、  
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席：照屋 副知事

## 2 報告事項

### (1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について【資料 1～7】

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
  - ✓ 人口 10 万人当たりの新規陽性者数は、2 週間前 154 人、1 週間前 130 人、昨日 114 人となっている。病床使用率、重症者用病床使用率は 10%程度で推移している。
  - ✓ 前週比は 10/18 に 1 を超えたが、それ以外では 0.7～0.9 で推移している。
  - ✓ 新規陽性者数は、昨日で 311 名となっている。本日は 282 名で、全国ワースト 46 位となっている。

- ✓ 入院中の患者は昨日 91 人で、ここ 2 週間 100 を下回っている。重症者数も 2、3 名で落ち着いている。宿泊療養施設も 100 前後で推移している。
- ✓ 前週比の推移比較で、全国では 10/18 に 1.39 まで上昇したが、その後 10/25 には 0.96 まで落ち着いている。
- ✓ 沖縄県の年代別新規陽性者数の推移では、8 月のピーク時以降は全年齢で下がり傾向。直近の年代別陽性者割合は、10 代が 16.5%、30 代が 16%となっている。
- ✓ 前週比が 1 を超えている年代は、30 代と 70 代~90 代以上となっている。高齢者の数が多い理由としては、発生届の対象者であり、高齢者施設でのスクリーニングで陽性者の確認がされていることが理由の一つと考えられる。
- ✓ 非コロナ病床利用率について、県全体では 92.9%となっている。沖縄本島では 93.2%、特に南部では 95%を上回る日が続いており、コロナは落ち着いているが、非コロナ病床使用率は以前高い状況が続いている。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限について、最大 1,277 名の休業者がいたが、10/26 には 104 名の休業者まで落ち着いている。
- ✓ ワクチン接種状況について、10/25 時点では、1 回目、2 回目ともに 70%台となっており、3 回目は 49.2%となっている。高齢者のみだと 3 回目接種は 84.7%が完了している。4 回目接種については 60 歳以上のみの集計で 57.3%が接種している。
- ✓ 4 回目接種（60 歳以上）11 市における 9 月末までの接種対象者の接種状況については、前回報告では 59%だった沖縄市、糸満市がそれぞれ 65.1%、66.4%と改善されている。
- ✓ 出向き接種の状況、商業施設では 9 月に 4 回、10 月も予定含め 4 回予定している。今後の予定として、10/29 にうるマルシェ、11/5 にイオンモールライカム、11/12 にうるマルシェでの出向き接種を予定している。

- ✓ 県庁・大学の接種では、9月に3回、10月に6回を予定している。今後の予定は、10/28に宜野湾市役所、11/2に高齢者施設（2か所）、同じく11/2に沖縄市役所で接種を予定している。
- ✓ 商業施設では、接種券があれば当日予約なしで接種が行える。また、接種間隔が短縮されたため、11月以降は5回目接種も可能。

## （2）県立病院の状況について

### ➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 9/28の県立病院の入院患者は23名で前回報告より9名減、9/21報告より21名減。
- ✓ 県立病院の入院患者は、北部病院5名、中部病院1名、南部医療センター12名、宮古病院3名、八重山病院1名、精和病院1名となっている。非コロナ病床稼働率は全体で86.4%となっているが、南部医療センターは94.6%と高い稼働率となっている。
- ✓ 中部病院で9月に発生したクラスターは、9/27をもって終息している。
- ✓ 南部医療センターでは、ICU、PICUにコロナ感染者がいる。また、他院から転院したコロナ患者は重症で、現在人工呼吸器管理中。
- ✓ 宮古病院では、入院患者は全員80歳以上の高齢者。島内感染者はやや増加傾向であり施設内感染が主のよう。
- ✓ 精和病院では全て通常運用できており目立った問題はない。
- ✓ 八重山から本島へ1名送患したケースがあった。

## （3）宮古・八重山地域の感染状況について

### ➤ 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 新規陽性者数は一週間で51名、前週比1.5となっている。9週間ぶりに1を

超え、少し流行している様子。また、宮古での累計陽性者数が 25,000 人を超えた。島内の 36%を超えたところ。

- ✓ 学校や保育園で拡大しているといった情報はない。ただし、施設での発生は増加しており、陽性者の発生した施設は週 11 件となっている。先週が 3 件だったので、3 倍以上増えている。施設内療養者は 14 人となっている。
  - ✓ 5 人以上の陽性者が発生している施設は 5 か所あり、うち 3 施設はデイサービスなどの通所系施設。
  - ✓ 体制としては、現在保健所のみへの対応。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
- ✓ ここ一週間の発生患者数は 50 名前後とかなり減ってきている。人口 10 万人あたりの数は 10/17 の週で 86 名と、県の半分くらいとなっている。
  - ✓ 9/26 以降の届出対象者について、竹富町、与那国町は 0、石垣市が自宅療養者 7 名、宿泊施設 2 名となっている。
  - ✓ 保健所の体制については、報告関係の事務処理が追いついてきており、7～9 月のクラスター情報についても取りまとめて報告準備をしている。
  - ✓ 11/1 に高齢者施設等の職員への感染予防対策についての研修会を予定している。

#### (4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA 等の状況【資料 8】

- 文化観光スポーツ部より報告
- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、10/17 の週の受検者は 1,488 名で、前週比-288 名。内訳は、県内在住者 1,228 名、県外在住者 260 名、陽性者は 16 名で、陽性率は 1.1%となっている。
  - ✓ 久米島空港の PCR 検査会場については、10/31 で終了となる。利用者のほとん

どは島民となっており、終了に伴い今後は、観光客に対しては来島前の事前検査の案内を行い、島内においては抗原検査キットを購入可能な薬局を空港内及びホテルに案内することとする。また、TACOにおける旅行客の健康観察は引き続き実施する。島民に対しては、RADECO、抗原検査キットの配布事業で対応を行う。島民全員分の抗原検査キットは準備済みで、今回の事業終了については久米島町と協議し了解を頂いている。

- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は573名。前週比-52名。うち県内在住者231名、県外在住者342名、抗原検査陽性は0名であった。
- ✓ TACOについて、10/17の週の電話対応件数は38件で、うち健康相談・問診実施数は3件となっている。

#### (5) 質疑応答

- ✓ 県庁での出向き接種は今後予定しているのか。  
→現時点では予定していない。宜野湾市、沖縄市で行う予定。必要とあれば今後検討したい。

### 3 その他

#### (1) 新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応について

##### ➤ 総括情報部より説明

- ✓ 厚生労働省が設置した、同時流行対策タスクフォースの資料に基づいて説明。  
今年の冬は、夏以上のコロナウイルスの流行が起きる可能性があり、同時に季節性インフルエンザの流行も予想され、多数の発熱患者が同時に生じる可能性があり、その場合に備えたイメージ図を示している。
- ✓ 重症化リスクの高い4類型（小学生以下の子ども、妊婦、基礎疾患がある方、高齢者）については速やかに発熱外来、かかりつけ医、地域外来・検査センタ

一を受診し、新型コロナ・インフルエンザの検査結果次第でそれぞれに応じた対応を示している。

- ✓ 重症化リスクの低い方に対しては、まず新型コロナの検査キットでの自己検査を行い、陰性であれば電話・オンライン診療・かかりつけ医等に相談し、インフルエンザの診断の結果に応じた対応をおこなう。新型コロナ陽性であれば、健康フォローアップセンターに登録を行い自宅療養となる。症状が重いと感じるなど、受診を希望する際は発熱外来・かかりつけ医に要相談。
- ✓ 同時流行を見据えた感染状況に応じた呼びかけとして、3つの状況が示されている。
- ✓ 感染が落ち着いている状況では、事前準備の促進が狙いとなっており、メッセージとしては、同時流行が懸念されること、抗原検査キット及び解熱鎮痛剤の事前準備、ワクチン接種について呼びかける。
- ✓ 感染者の増加が見られ同時流行の兆しが見える状況では、重症化リスク別の行動喚起が狙いとなっており、メッセージとしては、同時流行の兆しが見られること、高齢者・基礎疾患のある方、妊婦、子ども等に対しては症状があれば速やかに発熱外来を受診すること、若い方については健康フォローアップセンターの活用の案内、ワクチンの接種について呼びかける。
- ✓ 同時流行により医療のひっ迫が懸念される状況では、重症化リスク別の行動喚起徹底が狙いとなっており、メッセージとして、同時流行により医療機関が速やかに受診できない状況であること、体調不良時の相談先の再周知を行う。

## (2) 質疑応答

- ✓ 沖縄県の資料として公表する際は、修正が必要と思われる箇所がある。1つは、重症化リスクの高い方向けの自宅療養又は入院の際の対応について、保健所等が重点的にフォローすることとなっているが、沖縄県では健康管理センターが

中心に対応しているため、健康管理センターと保健所両方の記載が必要。もう一つは、重症化リスクの低い方向けのフォロー図内で、新型コロナ陽性だった際に健康フォローアップセンターに登録する案内となっているが、宿泊療養や配食サービスを希望する方のみ登録するものなので、必ず登録しないとイケないものと受け止められる懸念がある。書きぶりについて注意が必要。

→国のほうからも各都道府県の実情に沿った形で計画を策定するよう言われているので、沖縄県での対応と整合が取れるよう策定を行う。

- ✓ 重症化リスクの高い類型に、小学生以下を含めることが妥当かどうかは考えた方がよい。沖縄県では今年 10 万人の 12 歳以下の感染を確認したが、重症者は 2 人で死亡者はいない。全国では死亡例もあるので安全ということではないが、高齢者と並べて含めるべきかということ、専門的な立場からすると違うと考える。12 歳以下の陽性者がピークだった 7/25 で 1,303 人の陽性を確認している。これだけの数が発熱外来、救急外来で対応できるだけの体力があるかどうか確認することが必要。支えられるだけのキャパがあればよいが、なければ救急崩壊が起きる。
- ✓ 同じく 7/25 に陽性となった高齢者は 726 人で、1 日合計 2,029 人。この高齢者については全員受診すべきと臨床の立場では考えているので、残りの 1,303 人について対応できるのかどうか。押しなべて今年の夏は小学生以下 1,000 人、高齢者は 7,00 人程度で推移していたため、対応能力について確認した上で検討していただきたい。
- ✓ 厚労省発出のフロー図については、行政側の対応能力の確認用とし、県民にはもう少しわかりやすく丁寧な形で示すべき。  
→頂いた意見を整理し、県バージョンとして県民に対して丁寧な説明ができるよう対応する。

閉 会